

視座

ITを活用し豊かなコミュニティを再構築

21世紀の新たな地域おこし



でん縁都市構想・米沢
ビジネスネットワーク
柴田 孝

昨今、インターネットに代表されるIT(情報技術)の発展・普及によって、グローバル化・ポータレス化が地球規模で進み、経済・社会情勢が大きく変化し始めた。この変化に乗り遅れた日本の製造業は縮小が続き、代わって中国が「世界の工場」として急激な発展を遂げ、モノ作り大国日本を大きく揺さぶっている。

日本の産業構造は大都市が研究・開発(頭脳)、地方はモノ作り(手足)で、しかも大企業ごとに縦に統合されているのが代表的なパターンであり、日本の強みは総合力という大企業中心のチームワークが支えてきた。しかしインターネット社会でアンバンドリング現象が始まると、個々の機能ごとの競争力が問われ、誰にでも出来る特徴のないものや弱いもの、中途半端なものは縮小、消滅する方向に向かうことになる。

このような中央主導型チームワーク構造は、企業だけでなく地方自治体にもひしひしと迫っている。これからの地方は画一性から独自の特徴を磨き、地域の価値を創造し競争社会におけるオンリーワンやナンバーワンを用

意できていないと存続が困難になっている。画一的な横並び地域にITが導入されると、さらなる均一化が進み、ストロー現象が起きて、地方の富はさらに中央の強者に吸い取られる。

地方の空洞化を考える上で重要なことは、製造品出荷額の占める電気機械工業の割合である。この割合は全国平均で約21%、東北地方で約35%、山形県で約45%、米沢市ではなんと約75%も占めている。この電気機械工業製品の大部分は、賃金水準が日本の二十分の一という中国でも十分に作る事ができるため、地方の空洞化をますます加速している。グローバル化・ポータレス化等、競争市場経済の環境下、日本の置かれている状況から地域や企業が生き延びていくためには、今後おのおのがどのような改革を計画、実行していかなければならないのだろうか。

住民が自ら地域の課題を解決

変革のためのキーワードはノングローバル内需型、ニッチマーケット、高齢化社会、循環型環境、技術開発型、産学連携、生活者の

視点、コミュニティ(地域社会)、コラボレーション(協業)、バーチャル(仮想)、ソリューション(問題解決)、IT技術等である。地域やそこで暮らす生活者が抱える課題をこれらのキーワードで考えてみると、本質がよく見えてくる。欧米型のインターネット文化は、地域の高齢者や主婦がその地域の文化や生活様式と融合させて初めてインターネットの恩恵を地域や生活者が受ける。モノを作ることに以上に、地域で暮らす人々に必要なコンテンツ(内容)やサービス・運用が重要になってくる。

地域や生活者の問題は大企業や中央官庁が解決できるものではなく、地域に住む人々が知恵を出し合い、共に解決していかなければならない。従来の生活様式を大事にししながら、ITと融合して新しい文化を生み出すことにより、新たなビジネスモデルを発展させる可能性が出てくる。数年先の少子高齢化成熟社会と地域の特徴、特性、例えば米沢なら雪と伝統文化とそれにかかわる医療、介護、福祉、教育、環境、商店対策等を住民主体となつて問題の解決策を考えていかなければならない。

地域の価値を創出しビジネス化

次に、地域再生のキーとして重要なことは地域の価値の再認識、発見と創出である。

企業ならお互いの強みを生かした地域企業の仮想連携、さらに他地区とのネット連携による仮想共同体としての新ビジネス創造、大学を核とした新産業創出や地域の一次産業や伝統工芸等の価値を生かした複合立体型（二次、三次産業の協業）による新たな価値創出である。

IT革命や新しい変革は、我々が理解できないままに、世界同時に、しかも猛スピードで進行するのが特徴であり、準備を怠るとなかなか取り返せないことが起きる。今の日本



「でん縁都市構想」のサイト

を見るとそのことがよく理解できる。

IT革命に気がついた人が、行動を起こし、地域のIT戦略を策定・提案し、さらに地域価値を創造するブランドデザインを提案・試行すべきである。「でん縁都市構想・米沢ビジネスネットワーク」は、社会の変革に気がついた地域の有志の集まりである。二〇〇一年十月に誕生した「でん縁都市構想」とは二十

一世紀の都市づくりを構想することである。構想として第一に、ITを戦略的に活用して地域社会・コミュニティの豊かさを再構築することを試みる。第二に、従来のエネルギー基盤、交通基盤に加えて情報・コミュニケーション・センサー基盤を加味した都市計画ビジョンの策定を推進する。第三に、ネットワークを介した他地域との戦略連携、情報共同体、新経済圏の先駆的モデルの構築を試みる。これらの着想に基づき、さらに生活者の視点に立った実験として「インターネット参観」を開始した。これはカメラでとらえた保育園の様子を、インターネットで配信するというものである。またこの応用として、高齢者の介護やインターネットでの買い物、病院の予約システムを計画中である。

地域企業の活性化では東京商工会議所渋谷地区IT推進協議会との商談会や、他地区との交流を予定している。また企業ポータル立ち上げ、山形大学工学部を中心とした産学共同開発等幅広く活動している。

でん縁都市構想の実証実験を通して、地域情報化のブランドデザインを策定・提案する

と共に、生活者の視座で地域の問題に取り組み、新しいビジネスモデルの創出や地域特産物の発掘等を行っていく。

最後に、でん縁都市構想活動が日本全国に広がることを願い、中央主導型から市民主導型の新しいネットワークまちづくりを目指していきたいと思う。

1

【でん縁都市構想】「でん」は田・伝・電の意。「田」は自然の共生、大地の恵み、循環型社会の価値と関係性の尊重を象徴する。

「伝」は伝統的価値（正義・殖産振興・人づくり）文化・風土的価値の尊重と未来への展望（火種）を象徴する。

「電」は科学技術や電子ネットワークに基づく価値と関係性を象徴する。

「縁」はそれらを結び関係性、つまり二十一世紀の社会経済活動を支える源泉を表す。

柴田 孝

NECカスタムテクニカ(株)執行役員。
1946年、米沢市生まれ。
1969年3月、東北学院大学工学部卒業後、同年4月米沢日本電気(株)入社。現在、NECカスタムテクニカ(株)執行役員兼ソリューション事業部長。

【でん縁都市構想HP】
<http://www.yonezawa-bno.com>

【いよね(地域ポータル)】
<http://www.e-yone.co.jp>